

第107回 10月12・13・14日開催

島田大祭

～島田大祭の見どころを紹介します 其の三～

第四街

【本通四丁目、柳町、太川町】

案内人：第四街 祭典委員長
わたなべ かずひこ
渡辺 一彦さん



第四街は、本通四丁目・柳町・太川町の町内で構成され、大祭では、屋台踊りと地踊りを担当します。

今回の大祭では、4人の子どもたちが上踊りを披露することが決まり、花柳錦里先生はなやききんりの指導の下、練習に励んでいます。大祭中は、3日間の舞台を務める子どもたちに、大きな声援をぜひお願いします。

四街屋台の長唄は、(社)長唄協会とうおんかいの「東音会」の芸人さんが担当しています。全員女性の芸人さんで構成される会派なので、唄声の違いだけでなく、お囃子や三味線の違いも聞き分けてみてください。

四街の地踊りは、青年・女子青年・子どもたちの総勢100人ほどで披露されます。町内在住者だけでなく、知人や転出者の参加もあり、一丸となって大祭を盛り上げてくれます。9月に入ると、おび通りで地踊りの練習を始めます。夕暮れ過ぎに聞こえてくる長唄の音色を、お楽しみください。

大祭当日は、青年長の笛てこのもと、屋根係と青年が引く綱がきしみ、中老が受け持つ梃てこがしなる、息の合った屋台運行をお楽しみください。

第五街

【本通五丁目、太津通、新町通】

案内人：第五街 祭典委員長
さづか じろう
佐塚 次郎さん



第五街は、本通五丁目・太津通・新町通の3町で構成されています。大祭では、屋台踊りと地踊りを担当します。

40歳以下の参加者は「青年」と呼ばれます。青年の役割は重く、祭りのスケジュール調整と、それを基にした屋台の運行を取り仕切ります。とくに三役の「青年長・応接長・会計長」は重役で、大祭年の4月ごろから準備を始めています。また、屋台の「屋根係」は、正確な運行かじと舵取りを任せられた、屋台の花形です。

第五街の屋台の舞台には「セリ」があります。舞台下から、踊り子を人力でせり上げる仕掛けです。せり上がりまでの間、長唄と鳴物の競演が続きます。これは、東京歌舞伎座で演じる芸人の生の声・生の演奏で、大変な見ものです。

セリから現れた踊り子が披露する演目は「石橋」。そして、屋台の運行には、地踊りが花を添えます。

第五街の地踊りは、子どもと青年によるげんろく「元禄花見踊り」と、青年だけのえちごじし「越後獅子」です。大祭にお越しいただき、可愛い子どもと元気な青年・中老の活躍、そして絢爛豪華な第五街の屋台を、ぜひご覧ください。



「東音会」の長唄芸人は全員女性



「セリ」から現れた踊り子

【お詫びと訂正】 広報はまだ7月号の紙面に間違いがありましたので、お詫びして訂正します。

●4ページ右上の写真：鹿島踊でない ●5ページ「御徒士」のふりがな：(誤) おとし(正) おかち



おとのさま
御殿様



さるたのこ
猿田彦



おみこし
御神輿

大井神社

第一街

第二街

第三街

第四街

第五街

第六街

第七街

新組

元宮

第二街

【本通二丁目、扇町、日之出町】

案内人：第二街 祭典委員長
たてばやし たつよし
立林 達義さん

第二街は、本通二丁目・扇町・日之出町の3町で構成されています。江戸時代の宿場家並は「上平組・中組・下平組」と大きく3区に分かれ、第二街は、中組に属していました。当時の区割りが現在まで受け継がれ、島田大祭では、屋台踊りと地踊りを披露するための屋台を運行します。

文献を見ると、1829年(文政10)に、第二街屋台の存在が初めて確認できます。1892年(明治25)の記録では、幅8尺(約2m40cm)長さ9尺(約2m70cm)と現在の屋台の半分ほど。当時の屋台は今日の舞台部分とほぼ同じ寸法で、小型であったことがうかがえます。大正期には、先代の屋台が建造され、幅2m77cm、長さ5mと大型化されます。現在の屋台は、平成元年に新調したもので、幅3m、長さが6m6cmあります(いずれも油障子は除く)。これらの変遷から見ても、屋台は島田の発展とともに、より大きく造り替えられてきたようです。

このような歴史ある屋台で、本年も3組の踊り子と長唄「佐門会」による屋台踊り、青年から子どもたちによる地踊りを、市民の皆さんに披露できることを、感謝しています。

第三街

【本通三丁目、幸町、栄町】

案内人：第三街 祭典委員長
おかだ かずひろ
岡田 和広さん

第三街は、本通三丁目・幸町・栄町で構成され、島田大祭では屋台を担当しています。屋台とは、屋台の上踊りと、主に青年男子と女子青年が披露する地踊り、そしてお囃子の総称です。

上踊りのバックを担当するのが、東京の歌舞伎座で活躍する「芳村金四郎」率いる長唄芸人の皆さんです。第三街では、なかなか見ることのできないこの東京芸人の芸を「お手見せ」という形で、地元の皆さん、そして島田大祭を楽しみに来島していただいた皆さんにお披露目しています。

今回の107回島田大祭では、第三街が年番街として大祭実行委員会の長を務めさせていただきます。そして青年においても、年番長としての役を務めることになりました。

市の中心部に位置する町内であり、それだけに参加者の減少が大きな問題になっています。特に、青年層が少なく、青年の仕事を手伝うことで、人手をフォローしています。また、中高校生の参加を積極的に呼びかけ、青年不足をカバーするとともに、今後も未来の祭りを担う若者の育成に努めていきます。



180年以上の伝統を受け継ぐ屋台



芳村金四郎氏と長唄芸人